



明けまして、おめでとうございます。

皆様、お正月をどのように迎えられましたか。鳥取県に引っ越しをしてきて3年目の私は、はじめて出雲大社へ初詣に行きました。大勢の参拝者でにぎわうなか、ご神殿はただただ静かに佇みます。私の心もそうでありたいです。今年も「山陰海岸ジオパーク 海と大地の自然館」をよろしく願います。

ほにゅうるい 哺乳類の日本固有種

さて、今回のジオフィールドでは、日本の哺乳類と日本海の関係について紹介します。身近な野生動物として、昔話にもよく登場するニホンノウサギ(写真 1)やニホンザル(写真 2)ですが、これらは日本にしかない日本固有種ということをご存じでしょうか。他にもニホンカモシカ、ニホンテン、ニホンリス、アカネズミ・・・など、私たちににとっては当たり前の動物が、日本にしか棲んでいません。環境省では、モグラの仲間 14 種、コウモリの仲間 16 種、ネズミの仲間 13 種、イタチの仲間 3 種、ウサギの仲間 2 種にニホンカモシカ、ニホンザルの 50 種を日本固有種に指定しています。



写真 1. ニホンノウサギ



写真 2. ニホンザル

1. 哺乳類の固有種と生物多様性

世界資源研究所他「世界の資源と環境 2000-01」によると日本には 188 種の哺乳類が生息しています。そのうちの 42 種、22%が固有種となります。同じ島国のイギリスでは、哺乳類は 50 種が生息していますが、固有種はいません。国土面積が日本の約 90%のマレーシアでは 300 種と種数は多いですが、固有種は 36 種で 12%にとどまります。中国には 400 種の哺乳類が生息していますが、面積は日本の約 25 倍です。言い換えると中国の 4%の国土に中国の約半数の種類が日本にいることになります。このように日本は総面積に対して生物の種類が多く、その固有種率も高いといえます。世界で特に生物種が豊かで、かつ危機に瀕する地域を生物多様性のホットスポットと呼んでいます。全世界に 34 ヶ所あり、日本はそのひとつです。

2. どうして固有種が多い？

どうして日本には固有種が多いのでしょうか。それは、山陰海岸ジオパークのテーマ「日本海形成」が関係しています。日本列島は、南北に長く約 3000km におよびます。気候も亜熱帯から亜寒帯と幅広く多様な森林に恵まれているということが、生きもの種類を豊かにしたことの要因のひとつです。そして、日本が島国で日本列島の地殻変動と氷期・間氷期の海面の高さの変動によって、海に陸続きになったり、隔てられたりしてきたことも重要な要因です。日本海が日本の生物の多様性を作り出しました。日本の陸棲哺乳類は、動物相の

境界であるブラキストン線、^{わたせ}渡瀬線(図 1)で3つ地域に分けられます。ひとつは津軽海峡より北の北海道、次に本州・四国・九州、3つ目はトカラ海峡より南側の南西諸島です。それぞれ哺乳類相が変わります。

台湾や九州と海によって隔てられた渡瀬線南側の南西諸島では、イリオモテヤマネコ(写真 3)やアマミノクロウサギ(写真 4)など古い時代の哺乳類が生息しています。これらは世界的にも一部の地域しか近縁種がいま



写真 3. イリオモテヤマネコ

写真 4. アマミノクロウサギ

的にも一部の地域しか近縁種がいまいません。奄美大島や西表島が海に囲まれたために生き残った種と^{しゆ}考えられています。

次に本州・四国・九州で

は小型哺乳類の多くが日本固有種です。ニホンザルやニホンノウサギ、ニホンリス、モモンガ等の固有種は、近縁種が大陸や北海道には生息をしていますが、冬眠姿が愛らしいヤマネ(写真 5)は、世界のどの地域にも近縁種がいまいません。南西諸島と同様に大陸の哺乳類の生き残り種と独自に進化を遂げた種がいると考えられています。

最後に北海道は樺太と約 2 万年前は陸続きになっていたため、島になってからの歴史が浅く、北海道を代表するような哺乳類ヒグマやエゾジカ、キタリス、ナキウサギ(写真 6)は大陸と共通です。北海道にも日本固有種は生息しますが、北海道にしか生息しない日本固有種は意外にもいません。

地球の大きな営みのなかで日本は大陸から離れ、日本海は誕生しました。その後の火山活動などによって日本列島は形作られました。海に隔てられたからこそ、世界の他の地域では絶滅をした種が遺存されたり、独自の進化を遂げました。日本海は日本固有種誕生に多大な貢献をしました。

3. 絶滅の危機

固有種であったニホンオオカミやニホンカワウソなどは既に絶滅しました。乱獲や生息地の開発などの人間の活動が原因です。固有種のなかにはイリオモテヤマネコやアマミノクロウサギのように絶滅の危機にさらされている動物もいます。日本国内には生息数を保っていても地域ごとに絶滅が心配されている種もあります。地域ごとの遺伝子の多様性がなくなれば、命のバトンタッチや環境の変化に対応が難しくなります。私たちは、日本海の賜物の日本固有種を保全していけるのでしょうか。(笠木)



図 1. 日本の動物相の境界



写真 5. ヤマネ



写真 6. ナキウサギ

《主な参考資料》

- ・国立科学博物館 web サイト『日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究』
- ・環境省 『環境白書 2008』
- ・熊谷さとし 『フィールドワーカーのための動物おもしろ基礎知識』 2006 偕成社
- ・京都大学総合博物館 『日本の動物はどこからきたのか』 2005, 岩波書店

《写真 出典》 環境省ホームページをもとに加工しました。

- 写真 3 <https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/index.html>
- 写真 4 <https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/index.html>
- 写真 5 <https://www.env.go.jp/park/nikko/photo/a06/b01/p091.html>
- 写真 6 <https://www.env.go.jp/park/daisetsu/guide/view.html>

—イベント案内— 琥珀標本を作ろう!

日時: 2月23日(日)
10:00~12:00

集合: 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

定員: 先着20名

申込: 2/9(日)から
(電話のみ 0857-73-1445 9:00~17:00)

準備: 標本にしたいもの
例 セミの抜け殻、貝殻、
ドライフラワーなど

